



私の戦争体験

中谷 ノブ (代田1丁目) (聞き手・中谷田鶴/小澤清子)

8月5日(水)猛暑の午後、中谷家を訪問。ノブさん、長女の田鶴さん、愛犬の紅茶丸が迎えてくれました。ノブさんは、1920年生まれの90歳です。昭和18年に中谷 泰さんと結婚して以来、代田に住んでいます。女学校の頃、特別な式がある日に校長先生が、小学校にある奉蔵庫から御真影を取り出し、人力車で学校を往復し、生徒は、門の前で最敬礼をして待ちました。御名御璽の訓読を受けるのです。女学校を卒業後上京し、専門学校を経て洋裁の塾で勉強中、昭和16年12月8日東部軍管区発表の真珠湾攻撃のニュースを聞きました。

結婚してすぐに、夫が上海事変時以来2度目の召集になり、出生地の三重県を通して滋賀県から長野県の第5農耕勤務隊に配属になりました。弟2人は既に招集されており、下の弟は、20歳で兵隊検査を受けるとすぐに召集され、レイテ沖で撃沈、22歳の若さで戦死しました。

自分の進む道も決まり、近くの工場で働きながらデザインや製図の勉強をしていたのに……。戦後、夫は戦死した弟のこと、破産した実家のことは、余り話しませんでした。辛いから、話してもしょうがないことだからでしょうか。

画家の夫は、若い頃生活の為に、叔父さんの紹介で大手製菓会社の、ポスターやショーウィンドーディスプレイや雑誌の挿絵やカットなどの仕事をしました。ポスターも、最初は会社の菓の宣伝だけでしたが、戦況が厳しくなるにつれ、会社の方針もあり戦時色の濃い内容に変化していきました。大切な絵の具を画材屋さんに売って、お米を買ったこともありました。うまくすると時々、お米が手に入ることもありましたが、ほとんど配給の豆。母キヨが買ってくれた石臼で豆を粉にして色々工夫して食べました。お舅はよくおなかを壊していました。ノブさんは、お舅の世話をしながら、着物を質屋に持って行ったり、八百屋のおじさんに教えてもらった自転車で、烏山の方まで食べ物を求めて走ったり、知り合いの洋服を縫って食べ物と変えたり、朝鮮の人が調達したお米を親戚から分けてもらったり、食べ物の確保に奔走しました。

3月10日の東京大空襲で焼け出された一龍斎貞山さん(落語家)の奥さんと妹を、知り合いに頼まれて部屋を貸したこともあります。5月25日の空襲では、艦載機がガラガラと音をたてて低く飛んでいました。白い壁は目立つので黒く塗ったほうが良いと言われ、黒く塗っている家がありましたが、夫に黙って勝手にできないので塗りませんでした。

幸いこの辺は、家屋の炎上は免れましたが、淡島通り、三軒茶屋の方に空襲があって、爆弾が落ち赤い火が見え、環七に向かって電柱が焼けて倒れていました。庭に防空壕を掘った時、小さなタンクで壁をつくらうとしましたが、水が滲み出てきてタンクも駄目になり失敗でした。

近くで空襲が合った時は、大切なミシンを外に放り出したこともありました。

夫は、敗戦後間もなく昭和20年9月に帰ってきました。その後、夫が駐屯していた長野に買出しに行き、白米のおにぎりが美味しくて、つい食べ過ぎて帰りに下痢をしまい途中下車したことなど、セピア色になった懐かしいハガキや写真を、見せて頂きながら、時の経つのを忘れて沢山のお話をして下さいました。



中谷ノブさんと田鶴さん



戦況が厳しくなった時に、中谷泰さんが描いた、三共製菓のショーウィンドーのディスプレイ

「大東亜」戦争を終わらせたい

今年も「八月十五日」はやって来る。一九四五年のその日から六十五年目を数える。その日は「終戦」と呼ばれているが、私は敢えて「敗戦」と言いたい。今年はこのほかその思いが強い。広辞苑によれば「終り＝事が終ること。すえ。はて。しまい。」とある。日本が仕掛けた「大東亜」戦争は負けたが、まだ「おしまい」にはなっていない。

日本に帰国した「中国残留日本人孤児」たちが、人間回復を訴えて起こした国への賠償請求のたたかいは、二年前に一応の政治的決着をみた。だが、「孤児」たちの肉親捜しはまだ続いている。原爆症認定集団訴訟に続いて、東京空襲の犠牲者が空襲被害への謝罪と賠償を求める集団訴訟を国に対して起こし、たたかっている。大阪空襲の犠牲者も続いてたたかっている。まだ、あの「戦争」は終わっていない。

昨年「夏の陣」の「政権交代」で華々しく登場した鳩山政権が、「後期高齢者医療制度の廃止」を先送りして「国民生活第一」の公約を放棄した。そして、「普天間基地」問題では、アメリカの占領下ニッポンから抜け出せない姿を露呈した。

日本は、「大東亜」戦争に敗けた。生まれたときから戦争をしていたこの国。一九四一年四月、小学校に入るときに国民学校に代わって、その年十二月に「大東亜」戦争を始めた。一九四五年八月十五日の正午、重大放送があるとのことで、ラジオの前に家族全員が座って耳を傾けた。天皇の言葉の意味はわからなかったが、父が「負けた」とつぶやいた。「国のため、天皇陛下のために死ぬ」と教え込まれ、海軍兵学校への道をひたすらめざしていた国民学校五年生の「昭和の少国民」は、悔しかった。

そして、二学期がはじまって、教師の指示のもと教科書を墨で塗り潰させられた。しかし、新制中学校一年生で出会った『あたらしい憲法のはなし』が光りとなって、生き永らえて古稀を過ぎ、いま「後期高齢者」だ。あの「大東亜」戦争をきっぱりと終わらせたい、

八月は、六日の「ヒロシマ」、九日の「ナガサキ」、そして「八月十五日」と続く。あの「戦争」をみつめ、確かめ、語り継ぐ、熱い夏。

日本国憲法第九条を、くっきり輝かせるために迎えたい。 高岡岑郷（代田5丁目）

「詩人会議」 2010年8月号特集：戦争・基地・沖縄 エッセイ「私の8・15」より

65回目の記憶すべき日

8月15日という日がやってきました。敗戦記念日です。いつからか終戦記念日になってしまいましたが、この65年間、テーマは終始一貫してヒロシマ・ナガサキでした。それは人類史上当然のこととして。

その一方で、これと同じくらい強く語られるべきは、日本はまず最初に加害者であったという事実です。旧日本軍は中国をはじめアジア各国に侵略し、アジアの人間に対して何をしてきたのでしょうか。そのことが原爆の前で都合よく無視または軽視されてきたという思いがします。自分たちの犯した他国における非人道的な残虐行為にはできるだけ目を向けず、第二次世界大戦後のドイツとは対照的に、それらの国々に対して今日も尚、正式に謝罪していない日本。原爆を落とされたことによって長年の侵略戦争が帳消しになるわけではありません。自明の理です。

一方ではアメリカとの強固な安保条約、日米同盟があり、憲法九条をないがしろにした自衛隊- 実は「軍隊」- の軍備費が世界第6位という途方もなさ。日本全国に米軍基地を置き、核の傘の下に在る有り様です。こんな状況下でヒロシマ・ナガサキ・核廃絶と大声を上げて真の意味での説得力を欠くのではないのでしょうか。8月15日は広島・長崎とともにアジアの国の人たちをも記憶し、決して忘れないようにしましょう。それでこそ世界の市民です。

8月15日を思うとき、もう一つ気になるのが実際の戦争終結までの時間的経過です。歴史を振り返ってみますと、言語を絶する広島・長崎、また、悲惨な沖縄の激戦ですら、回避しようと思えば回避できる時間的余裕とチャンスは十分にありました。

1945年5月8日、ヨーロッパ戦線ではドイツが敗北して戦争は終結していました。日本は無謀にも戦争を続行し、沖縄が犠牲になったのです。連合国側が日本に対して、「ポツダム宣言」を示したのが7月26日。アメリカ側にはすでに大統領がサインまでした原爆投下命令書が用意されてあったのですが、日本はすぐには受け入れず延ばしに延ばしました。まる10日間も、それ以上もです。このせつかくの機会を頑固に受け入れようとせず、ついには原爆が落とされるまで、それも二度までも、ただズルズルと無意味に引き延ばしたのです。何のためだったのでしょうか。私たちはこの事実をよく考えるべきだと思います。

4月に亡くなった作家・劇作家の井上ひさしさん（九条の会・呼びかけ人）が最後まで考えていたのもこのことではなかったかという気がします。 ハッピ・リートケ（稲城市）

終戦記念日によせて「映画会」に参加して

8月15日の終戦記念日を前に、代田・九条の会主催の映画会で「千羽鶴」(1958年制作)と「ひとりっ子」(1969年制作)(シネマ・シネマ・シネマ灯倶楽部と共催)を観た。

「原爆の子」の像のモデル佐々木禎子さんのことは、何冊かの本で知ってはいたが、ドキュメンタリータッチの映像から受ける感動は別ものである。原爆症で亡くなった禎子さんの級友たちが、原爆の非道と平和を訴える「原爆の子」像設立に自発的に活動する姿は、戦後民主主義を体現し、まぶしくまぶしく耀いていた。

「ひとりっ子」は、防衛大学進学を目指す少年が主人公。同大学を受験し、自衛隊幹部になった同級生を、私は、数人知っている。授業料免除は、なんと魅力的だったろう。私には痛いほどよくわかる。「戦争の匂いのするところへお前をやりたくない」とひとり息子の防衛大学進学に反対する荒木道子の母、現実主義の父、北村和夫。懐かしい俳優たちの名演技も見どころ。藤田弓子演じるガールフレンドに励まされ進路を変える主人公。若々しい山本宣が安保反対のデモ行進に参加する姿にハッとさせる。若き日の湯沢勉も好演している。

日米安保50年を見直す今、多くの人に観てもらいたい映画である。

映画上映後、主演の山本宣さんを囲んでトークが行なわれた。

「ひとりっ子」は、初め兄・山本圭さんが主役でテレビ放映の予定であったが、圧力によって中止になった。その6年後に映画制作になり自主上映された。藤田弓子さんと全国を廻ったことなど40数年前の懐かしい話など聞くことができた。

伊藤 薫(羽根木2丁目)



8月8日の

ニューヨーク発 共同ニュース。

紙芝居で「サダコと千羽鶴」 米同時テロ追悼施設で催し

広島で被爆後、病床で亡くなるまで千羽鶴を折り続けた佐々木禎子さんの話を、紙芝居と絵本を使って児童向けに日英両語で朗読する催しが7日、ニューヨークの米中枢同時テロの追悼施設で開かれた。日米交流団体ジャパン・ソサエティーなどの共催。ジャパン・ソサエティーの源和子さんが紙芝居を操りながら「サダコと千羽鶴」の話を英語で朗読すると、子供も大人も熱心に聞き入った。



山本 宣さんを囲んで



集 会 等 の 紹 介

8月28日(土) 13:30～

講演 沖縄の海兵隊は日本を守ってくれるのか!? 松竹 伸幸さんと語る

会場 成城ホールE会議室 (砧総合支所4階)

主催 成城地域九条の会 参加費(含む資料代): 500円

8月29日(日) 14:00～20:00

第16回 世田谷公園原爆写真展

会場 世田谷公園 (雨天中止)

主催 <<2010年「せたがや文化平和月間」行事>>

9月 4日(土) 13:30開演

世田谷 反核・平和コンサート2010

会場 三茶しゃれなード 参加費: 前売1500円(当日1800円)

主催 <<2010年「せたがや文化平和月間」行事>>

11月 3日(水・文化の日) 午後 代田・九条の会 2周年記念のつどい 計画中

講演 「世界から見た憲法九条」(仮題) 伊藤 千尋さん(ジャーナリスト・朝日新聞)

朗読 または 歌

会場 東京都民教会

11月13日(土) 11:00～20:00

東京・9条まつり

会場 大田区産業プラザP I O (大田区南蒲田1-20-20:京浜急行蒲田駅東口)

成功協力金1000円

主催 実行委員会 (連絡先 Tel 03-3239-6716)

お願い: ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

代田・九条の会 資料集 「憲法記念日によせて お話と歌のつどい」

5月8日の「つどい」の資料集ができました。当日、嬉野さんの使用された写真などを掲載しています。

1部: 500円 ご希望の方は 伊東まで (Tel/Fax 03-3411-9179)

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++